

天津神社 春大祭

寺町区版

糸魚川 けんかまつり



寺町区 宮委員会

けんか祭りの流れ

■■■■■■ ■■■■■■ …写真と説明付き

日時	内容	時間	場所	詳細
2月末	けんか祭り保存会総会	19:00～	寺町会館	運営委員長の決定・幹事の決定(任期は二年) 鶏翁希望者(内定)
3月上旬	保存会幹事会	19:00～	寺町会館	手引先頭(1)・元付(2)・後押し(2)・組ませ(6) の人選・決定
3月28日	稚児揃え			役決定とおぼらい
4月3日	役割抽選会	18:30～	地蔵尊	鶏翁・露払い・獅子・白丁・手引き抽選
		19:00～	寺町会館	8時頃新町衆が合流・白丁肩合せ・手引き並び順の決定
4月6日	清祓(きよはらい)	17:30～	天津神社	寺町・押上 奉仕者合同清祓
	両区打ち合せ会	18:30～	一の地区	寺町・押上両区打ち合せ会(当年の一の神輿地区が会場)
4月8日	旗竿立て	17:00頃～	南寺町	南寺町上野さん宅前
	鶏翁竹切り	17:30～	天津神社	一の宮境内で竹を選び、鶏翁宅前まで運んで立てる 禊ぎの集合場所(1本)・露払いの竹(6本)も切る
4月9日	衣装出し・衣装渡し	午後～	寺町会館	衣装出しは9:00から準備 獅子が手伝う・衣装渡しは16:00頃から集まり始める
4月10日	一番太鼓	0:00	天津神社	午前零時に本役が一番太鼓を叩く 寺町・押上両区総代登社
	輿移し	4:30 (日の出頃)	天津神社	新町の基兵衛(近藤本家)甚之丞(近藤分家)が中心と なって蔵から神輿を舞台に上げる
	決定	6:00	各区会館	一の神輿総代が宮司に実施するか否かを連絡
	禊ぎ	6:00	まがたま裏	6時 禊の場所に集合し、鶏翁の合図で一斉に海に入って 体を清める
	花火	7:00		開催の合図の花火(5発)
	獅子迎え	8:00頃	鶏翁宅	鶏翁宅に獅子を迎えに来る 新町では近藤宅に迎え獅子が来る
	集合	8:30	寺町会館	準備・出陣式
	出発	9:00	一の神輿	9:00に寺町会館を出発。二の押上も同時刻に出発 会館-本町通り-広小路通り経由で一の宮へ
		9:30	二の神輿	二の神輿の時は押上の通過後9:30に寺町会館を出発
	迎え	10:00	参道入り口	一の宮役員2名が一の輿を迎えに参道入り口へ 太鼓橋で境内に入る準備(手洗い・衣装の直し等)
	一の使い獅子	10:10頃	太鼓橋	一の使い獅子が楽頭へ報告、楽頭の指示で境内に入る 本役の太鼓が詰まる(早まる)と境内に入れる
	二の神輿太鼓橋着	10:15頃	〃	境内に入る準備後、二の使い獅子が楽頭に登社の報告に行く
	神輿降臨祭	10:30頃	境内	舞台上で神おろしの神事
	神輿渡し	11:00	〃	舞台からかつぎ方へ神輿が渡される
	お練り	11:00～	〃	順序は説明図参照
	御走り前		〃	二の神輿の運営(実行)委員長が、先導神職より櫛を受け取る(幣殿裏付近)
	御走り(ドンデンドン)	11:30	〃	最後の稚児が舞台上上がった瞬間に二の神輿の歓声を 合図に御走りが始まる。
	神輿のぶつかり合い		〃	寺町・押上の棧敷の前でぶつけ合う 原則6回、後は両区の運営委員長の話し合いで回数 が決まる
	御走り(ドンデンドン)	12:30頃	〃	両区の総代が運営委員長から舞台上で櫛を受け取り、 揃って櫛を振った瞬間が御走りの合図
	詩歌応答			
舞楽	13:00	舞台	国指定重要無形民族文化財の舞楽12曲を奉納 振鉾(えんぶ)・安摩(あま)・鶏冠(けいかん) 抜頭(ばとう)・破魔弓(はまゆみ)・ 児納曾利(ちごなそり)・能抜頭(のうばとう)・ 華籠(けご)	
			大納曾利(おおなそり)・太平楽(太平楽)・ 久宝楽(きゅうほうらく)・陵王(りょうおう)	
乾杯	13:00頃	境内公園	総代・鶏翁・運営委員長の挨拶の後、乾杯!	
寺町	15:00頃		寺町、抜頭(ばとう)の舞が終われば 鶏翁を送って登社と同じルートで帰る	
4月11日	舞楽	13:00～	舞台	舞楽(内容は4月10日と同じだが舞楽衣装が異なる) 陵王の舞を最後に舞楽終了 最後に太鼓本役がドンデンドンを叩く
		17:30		

境内周辺案内図



拝殿



天津神社本殿



奴奈川神社本殿



参道と手水舎



太鼓橋と鳥居



子聖社(ねのひじりしや)



コマ犬



参道



南側鳥居

主な役割と衣装



とりじ
鶏爺

祭りの主役で、神様の使い・先導役として重要な役割です。厄年以上の年齢で受ける事ができます。



みやそうだい
宮総代

氏子の代表であり、けんか祭りの総責任者です。衣装は寺町・押上共に同じです。



じんべえ ふくそうだい
甚兵衛さんと副総代 (3人)

中央の豆絞りを掛けた方が甚兵衛さんで寺町の神様です。両脇の副総代三人は総代の補佐役です。



うんえいいんちよう
運営委員長

けんか祭りを運営する責任者です。祭りに関する事や、両区に起こった問題を取り仕切ります。



しし
獅子 (7人)

神様の通る道の悪魔祓いを行います。地元では「ジョウバ」とも呼ばれています。一説によると「除魔」がなまってジョウバと呼ばれているとも言われます。



つやはら
露払い (2人)

神様の先に立って道を開く・清めるつとめを行っています。また、行列の先導を行います。

主な役割と衣装



はくちょう
白丁 (10人)

神輿の担ぎ方の本役で、わずか10人であの重たい神輿を担いで走ります。



しらばかま
白袴 (2人)

中央の水色な羽織、白い袴を着ている方が白袴です。寺町では近藤家しか出来ない役割です。神輿を守ります。



てひき
手引き (15人)

神輿の引き方で寺町は萌黄色の法被を着ています。先頭を「はな」と呼び、一番神輿に近い二人は「元付け(もとづけ)」と呼びます。



あとお
後押し (2人)

神輿の梶棒を押し、神輿のバランスを保つ役割です。一の神輿の時は組ませる最前列で頑張っています。肩に萌黄色のラインが入っています。



く
組ませ (6人)

最前列で押上と神輿を安全に組ませる役割です。中に入る時は2人一組で入ります。この役の法被は唯一押上と同じ色です。胸元の「寺町区」で見分けて下さい。



たいこ
太鼓

一の神輿の時は太鼓の本役です。二の神輿の時は「控え」と呼ばれて、本役の補佐をします。

2月下旬 けんか祭り保存会総会



この日が実質祭りの始まりの日となります。
総会では運営委員長・鶏爺(候補者)実行委員等が決められます。

4月3日 けんか祭り役割抽選会



この日に鶏爺(候補者の本決定)・獅子・露払い・白丁・手引き等の希望者によるくじ引きで役割が決まります。左下は重要な白丁の『肩合わせ』の風景です。

4月8日 祭りの旗竿立て



午後5時頃から人が集まり、みんなで協力して旗を立てます。

4月8日午後5時過ぎ 鶏爺の竹切り



鶏爺が宮司宅へ竹切りの挨拶をして



拝殿にてお参りします。



慎重に竹を選び



御神酒をかけて



竹を切ります。



みんなで担いで鶏爺宅へ・・・



鶏爺宅玄関には紅白の幕が掲げられ



今年も立派な竹が立てられました。

4月9日 衣装渡し



午前9時頃から衣装や祭りの準備を始めて、夕方4時頃から人が集まり衣装を受け取ります。

4月10日(日の出頃) 輿移し



新町(寺町)の甚兵衛(近藤・本家)、甚之丞(近藤・分家)が中心となって神輿を蔵から出し、
新町の10人の羽織袴姿の方々によって、舞台上に奉安します。

4月10日 祭り当日



朝の^{さじき}棧敷



禊^{みそぎ}の場所に立てられる竹(国道8号沿い)



朝6時過ぎに集合し、鶏爺・運営委員長の挨拶の後、海に入って体を清めます。



禊が終わったら各自家に帰って衣装に着替えます。

鶏爺や運営委員長、獅子などは家の人や先輩方に手伝ってもらいます。



7時半頃 鶏爺迎え



獅子・露払いを始めとする祭りの奉仕者が鶏爺を迎えに行きます。
鶏爺の支度が出来たら竹を倒して寺町会館へ向かいます。



寺町会館手前の交差点で新町の甚兵衛さんと合流して会館に到着、竹を立てます。



寺町会館に到着すると役の人達はそれぞれ準備を行います。

9時頃 寺町会館を出発



元気良く町内を歩いて



ことひらじんじやまえ
琴平神社前で竹を立ててお参りします。



踏切を渡って



一の宮参道に到着



一の宮役員の先導により参道を通り



10時頃 たいこ ばし
太鼓橋に到着



10:15頃 つか じし
使い獅子を出して



がくとう どうしや
楽頭へ登社の報告をします。

10時15分頃 境内へ入場



楽頭の指示によりいよいよ境内へ入場します。この時太鼓方が「しゃぎり」を詰めます。
(太鼓のテンポが早くなります)



拝殿にて鶏爺に真榊が渡されます。



両区役員の挨拶。



10:30 舞台上では神輿降臨祭（神おろしの神事）が行われています。



桟敷上の若衆は徐々に気合いが入ってくる頃、鶏爺の竹を降ろす準備が始まります。

1 1時 ^{みこし} ^{とぎよ} ^{みこし} 神輿渡御 (神輿を受ける)



寺町の^{とりじ}鶏翁が竹を降ろして^{ぶたい}舞台の北東角に立ると、^{ほくとうかど}伶人が笛一管から「三ツ拍子」を奏します。



白丁が神輿を受けるために準備して、舞台上の伶人から神輿を受けます。



伶人より白袴、白丁へと神輿が渡ります。



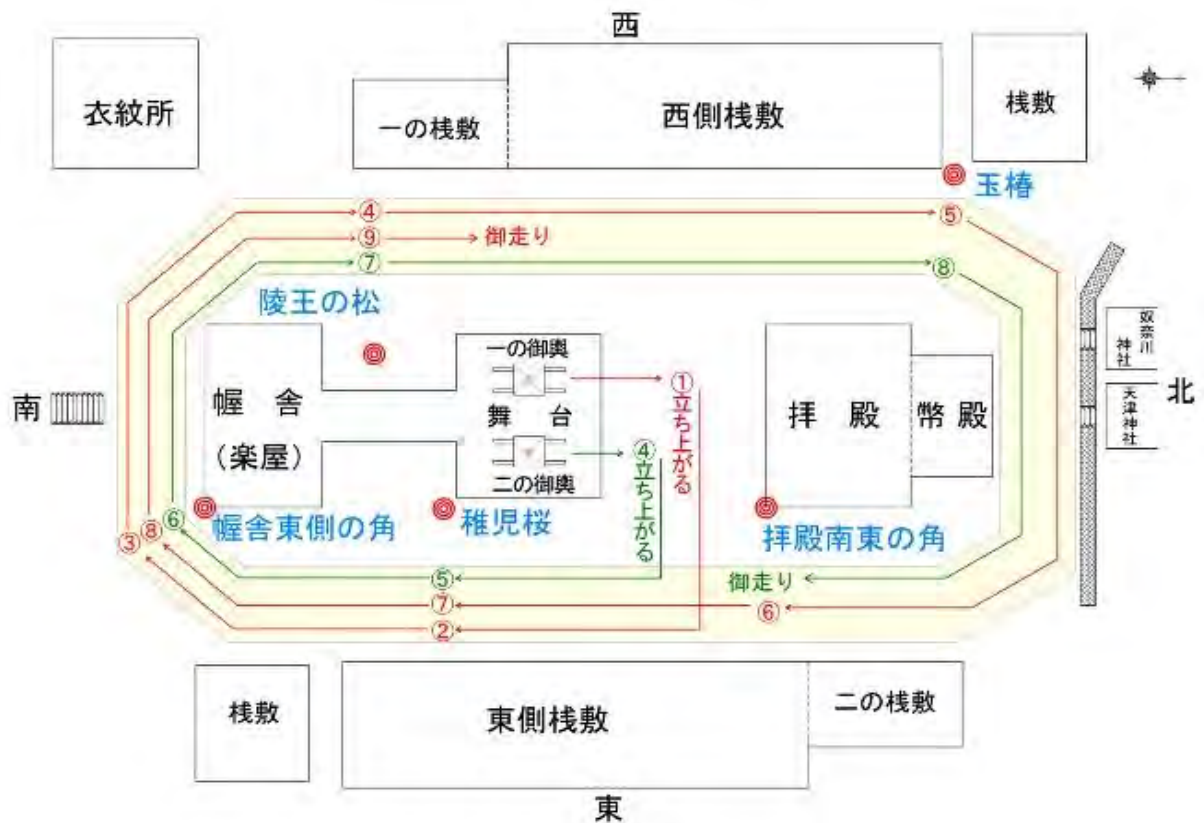
神輿を受けると手引き元付け、後押しの手綱(ワッサ)を付けます。

11時過ぎ みこし とぎよ 神輿渡御 (お練り)

神輿渡御の順序

寺町区一の神輿	① 寺町 鶏	② 先導 神	③ 寺町 総	④ 寺町運営委員	⑤ 寺町 神	⑥ 宮	⑦ 寺町区宮委員	⑧ 一の宮役員	⑨ 各区役員(区長)	⑩ 押上 鶏	⑪ 唐	⑫ 稚	⑬ 先導 神	⑭ 押上 総	⑮ 押上実行委員	⑯ 押上 神	⑰ 禰宜 (ねぎ)	⑱ 押上実行委員	⑲ 一の宮役員	⑳ 各区役員(総代)
	押上区一の神輿	① 寺町 鶏	② 先導 神	③ 押上 総	④ 押上実行委員	⑤ 押上 神	⑥ 宮	⑦ 押上実行委員	⑧ 一の宮役員	⑨ 各区役員(区長)	⑩ 押上 鶏	⑪ 唐	⑫ 稚	⑬ 先導 神	⑭ 寺町 総	⑮ 寺町運営委員	⑯ 寺町 神	⑰ 禰宜 (ねぎ)	⑱ 寺町区宮委員	⑲ 一の宮役員

お練りの順序



寺町の鶏翁てらまち とりじが稚見桜ちごぎくらから帷舎東南の角あくしゃに移ると一の神輿いち みこしが稚見桜ちごぎくらまで出てきます。

お練り



前頁「寺町区一の神輿」の行列順でお練りが行われます。



神輿は二回目の「三ツ拍子」^{みつ びょうし}「とめ」にて法螺貝^{ほらがい}(**立って吹いた時**)を聞いて進みます。



お練りが進んでくると白丁は烏帽子を取ったり、^{はくちょう えぼし}衣装をたくし上げたりして、^{おはし}御走りに備えます。



一の神輿が境内を一周して握舎東南に停止すると、稚児たちが次々と舞台上に上がり始めます。

御走り・神輿の競合い



稚児が舞台上上がり、二の神輿の運営委員長の榎と「ワァー」が合図で御走りが始まります。



御走りは一の神輿が逃げ、二の神輿が追いかける展開です。



一の神輿が所定の場所で停まると一回目のぶつけ合いの始まりです。



神輿は組ませ役の指示により危険が無いように行います。

1 2時半頃 最後の御走り



神輿のぶつけ合いは両区の棧敷前で基本的に三回ずつ、計六回行われます。
それを越す回数の場合は両区の運営委員によって協議されます。



鶏翁の真榊

手引き同士を繋ぐさらし



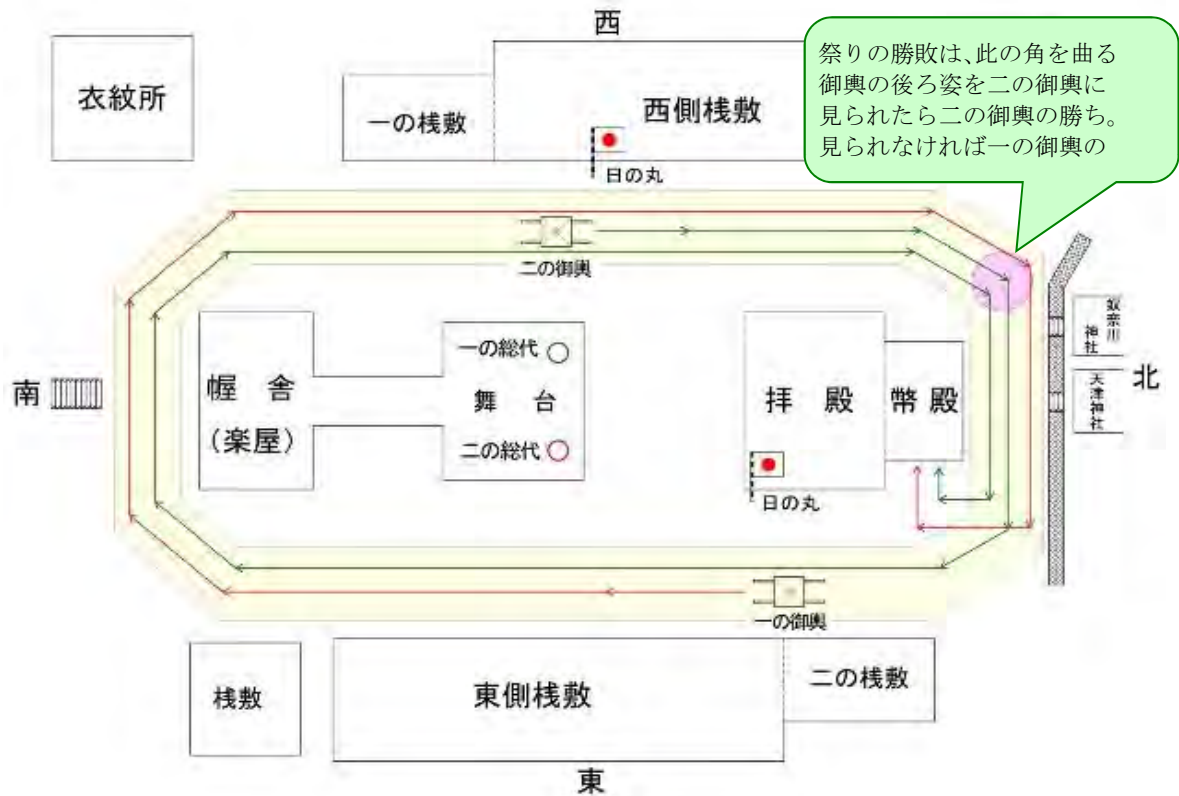
一の神輿・二の神輿の御走り位置にそれぞれ日の丸が立てられます。



両区の総代が舞台上に登場

運営委員長が榊を準備

最後の御走り



御走りについて両区の運営委員によって成立した時は、鶏爺に連絡します。その後、両区の運営委員各一名づつ二名によって拝殿に連絡し、一、二の定位置に日の丸を掲揚します。



舞台上の各々の総代に渡されます。



櫛を受けた総代達は一旦座って…また立ち上がって一、二の三の呼吸で櫛を振る

最後の御走り



両区の総代が同時に櫓を振った瞬間が最後の御走りの合図です。
この時太鼓の音は「ドンデンドン」に変わります。



周囲のみんなで白丁本役、手引きを激励しながら懸命に走ります。



幣殿の裏を曲がって



幣殿に奉安します。

ヤッショイ!!



栈敷上に上がって勝ち鬨を上げる若衆



歓喜の鶏爺



下にも大勢



さじき
栈敷でも



歓喜の鶏爺 (H20 雨で衣装も泥まみれです)



寺町の区旗も揺れてます



激戦の跡

動から静へ・・・



舞台上では舞樂が奉納されます。振鉦の舞^{ぶがく ほうのう}(左)、抜頭の舞^{えんぶ ひだり ぼとう みぎ}(右)が終わると寺町は帰ります



拝殿にお参りする祭りの主役三人(H20)



帰りの参道



無事に祭りが終わった安堵感いっぱい帰ります(H20)



奉安された神輿・・・また来年

その他

雪の神輿と獅子（平成5年）



平成5年4月10日は朝から時折小雪の舞うような天候で、祭りが行われるのか中止になるのか不安な日でした。取りあえず6時過ぎに禊に行きましたが、意外な事に海の水は外気に比べると暖かくすら感じました。8時過ぎに当時の寺町公会堂に集合して決行か否かを待っていたところ、出発間際になってみぞれがやんだのを期に決行となりました。しかし、天津神社の境内に入ったとたんに雪に変わって…上の写真のような状態になりました。写真で見ると非常に美しいのですが、現場に居ると…



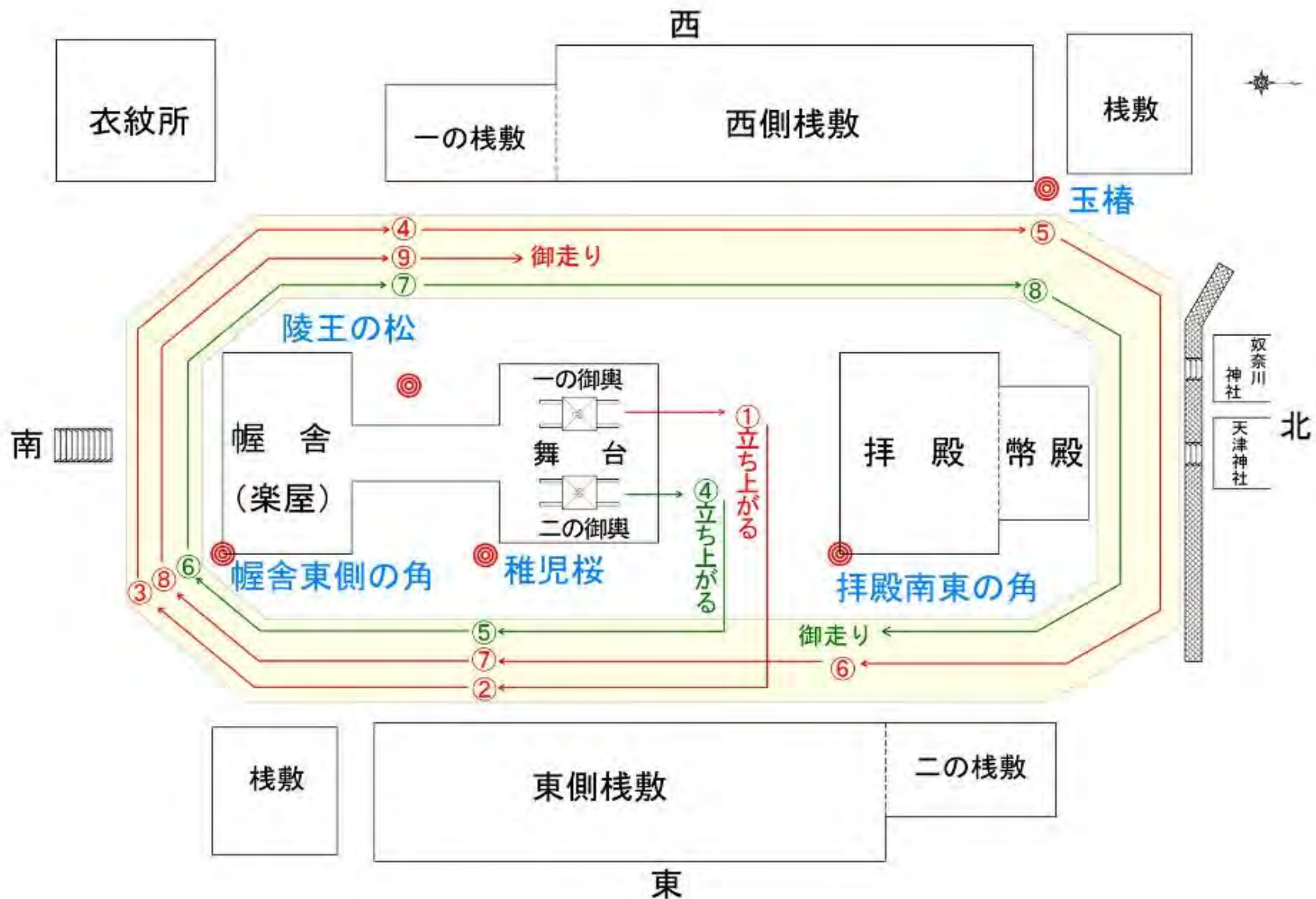
昭和20年代の写真です。

今とは町の景色も衣装も顔つきも違って、歴史ある祭りを継承しているという事を実感します。

編集後記

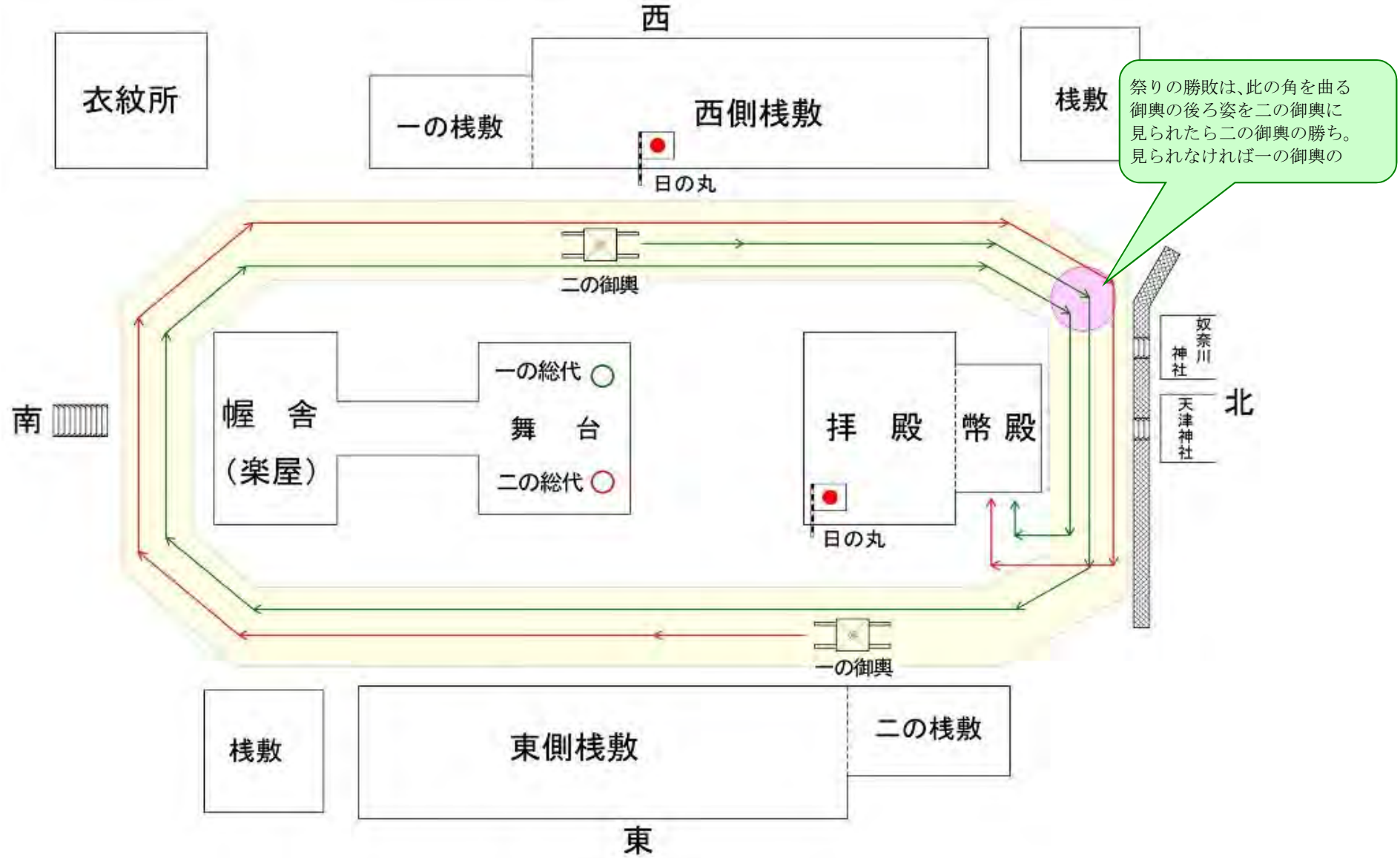
この冊子を作成するに当たり、快く写真を提供して下さいました方々に御礼申し上げます。平成22年度には117年ぶりに神輿の大修理が行われました。以前の神輿と大きく違う点は神輿の胴巻に模様が入った事です。本当はすべて22年度の写真でまとめたいところではありますが、流れを説明する上でやむを得ず過去の写真を使った場面もあります。22年度以前の神輿や人物の違いも楽しんで頂ければ幸いです。また、文言に付きましては見聞きしたままで書き連ねたものですので、実際と食い違っている部分もあろうかと思いますが、予めご了承くださいようお願い申し上げます。

お練りの順序



一の神輿・二の神輿はそれぞれ境内の対角線位置に停まります。舞台上の伶人二人が揃って立ち上がって法螺貝を吹いたらそれぞれ次の停止位置まで進みます。

最後の御走り



祭りの勝敗は、此の角を曲る御輿の後ろ姿を二の御輿に見られたら二の御輿の勝ち。見られなければ一の御輿の

両区の総代が舞台上に登場した時、一の神輿・二の神輿の先棒は少しでも日の丸より前にあってはいけません。もし、前に出てしまったらもう一週して所定の位置に着く事になります。(後戻りは出来ません) 両神輿が所定の位置に着いたのを確認後、舞台上の両区総代が同時に櫓を振った瞬間が御走りの合図となります。